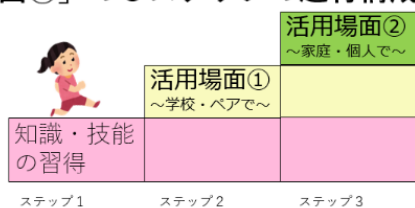


# 佐賀大学教育学部附属小学校 家庭科の取り組み

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた題材・授業の組み立て

「知識・技能を習得する場面」「知識・技能を活用する場面①」「知識・技能を活用する場面②」の3ステップの題材構成について



附属小学校における「3ステップの題材構成」

図1【生活をよりよくしようと工夫する能力を育むための題材構成について】



附属小学校では、家庭科の学習において「3ステップの題材構成」で授業を行っています。ステップ1では「知識・技能の習得場面」ということで、この題材で身につけるべき知識・技能の習得を行います。

ステップ2、ステップ3の「活用場面」では、「知識・技能の習得場面」で身につけた知識・技能が本当に使える知識・技能になっているかを試す場としています。まずステップ2の「活用場面①」ではパフォーマンス課題を設定し、習得した知識・技能を使って、ペアで課題の課解決策を考え、実践し、評価を行います。パフォーマンス課題という共通の課題を設定することで、解決策を互いに比べたり、関連づけたりしてよりよいものへと活かすことができると考えています。またペアで協力して実践を行うことで、解決策などを互いの意見を出し合いながら進めることができ、またペアで行うことにより教えあうこともできるため自信をもってすすめることができると考えています。

ステップ3の「活用場面②」では習得した知識・技能を使って、家庭を意識した課題を個人で解決します。家庭科の学習で最終的に目指すのは「家族の一員として生活をよりよく工夫できるか」という実践的な態度です。家庭生活を取り上げることで、自分の家庭の課題に目を向け、より家庭実践へ意欲を高めさせることをねらいとしています。

今回は6・7月に行った5年生の実践「一針に心をこめて」の題材を紹介します。

「一針に心をこめて」の題材は、子どもたちが衣生活の「裁縫」に出会う最初の題材です。1時目は「題材を貫く問い」というこの題材で子どもたちが解決を目指していく大きな問いをたてる学習を行いました。

家庭科の学習では、子どもが生活の中から問題を見いだして、課題を設定し、学んだことを活かしながら解決策を検討・計画し、実践を行い、評価・改善するという問題解決的な学習を行います。その中で「課題の設定」を教師が提示するのではなく、子ども自らが設定することで、子どもが「何を学ぶのか」「何ができるようになるのか」「どのように学ぶのか」を意識することにつながり、学習の見通しをもって主体的に取り組むことができると考えています。附属小の家庭科では、この課題を「題材を貫く問い」とし、子どもからどのように「題材を貫く問い」を引き出すのかに取り組んでいます。「題材を貫く問い」を設定する授業の導入として、生活の中から問題を見いだしたり、アンケートや統計資料から問題を見いだしたり、自分の生活を見つめて気付いたことから始める方法があります。

今回は生活の中から気付いたことを関連づけていきながら「題材を貫く問い」にもっていきという流れで行いました。

まず裁縫道具を見て、「どんなことができそうかな。」と問いかけてみました。すると次々にできそうなことを挙げていく中で、「身の周りには縫われたものが実はいっぱいあるんだ。」と身の回りにある布製品に関心が移り、布製品の多さ、布製品のよさって何だろうと対話が広がっていきました。

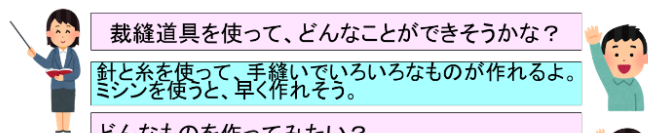
家庭科の学習では「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせて、生活をよりよく工夫する資質・能力を目指しています。学習指導要領には、「衣生活では「健康・快適・安全」で豊かな衣生活に向けて考え、工夫する活動を通して、生活を豊かにするための布を用いた製作に関する知識及び技能を身につけ、衣生活の課題を解決する力を養い、衣生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育成することをねらいとしている」とあります。子どもたちの発言の中にも「見方・考え方」が出てきましたので、「布製品は洗えるよ。」「カバーも多いね」などの発言を教師のほうで「これは健康の見方ができるね」と見方・考え方につなぐことも行いました。

そして「ぼくたちも作ってみたい。」という流れとなり、「どんなことを学べばみんなが作りたいものが作れるようになるかな。」とこれから学んでいきたいことを挙げていきました。

最後に「どんなものを目指したい?」と問いかけると「カッコいい」「美しい」「かわいい」「実用性がある」「長持ちする」などのテーマが挙がったので、それらを合わせかっこよく、美しく、かわいくて、実用性があり、長持ちするこものを手縫いで作るにはどうしたらいいか。」ということをも5年生の「題材を貫く問い」とし、みんなで解決を目指していくことにしました。

2時目からはまずステップ1「知識・技能の習得場面」です。今回のステップ1では基本的な裁縫道具の使い方を学んだ後、「玉止め」「玉結び」「なみ縫い」「ボタン付け」を練習布で一通り学習した後、フェルト1枚で作る小物入れを、クラス全体、同じ手順で作りながら、「かがり縫い」「しるしのつけ方」なども実践を行いながら学んでいきました。みんな共通の小物入れを作ることで、分からないところは教え合うことができ、技能も自然に身につけることができました。

次に作品①として、小物入れを作りました。今回はフェルトを組み合わせたたり、形を四角形から他の形に変えたり、大きさを変えたりするなど様々な工夫が見られました。まだ「知識・技能の習得」を目指す作品作りなので、友達や教師に聞きながら、新たな知識・技能の習得に励む姿が見られました。作品を作り終わったら、振り返りです。作品作りで気をつけたこと、工夫したことを振り返りました。実際に使ってみて、もう一度振り返りを行うと、端のところがほつれてしまった子



裁縫道具を使って、どんなことができそうかな?

針と糸を使って、手縫いでいろいろなものが作れるよ。ミシンを使うと、早く作れそう。

どんなものを作ってみたい?

きんちゃく袋 ランチョンマット カーテン サッカーボール バック 小物入れ クッションカバー ティッシュケース フックカバー 柔道着(洋服) ポーチ 財布 フックバック マスク エプロン ぞうきん 体操服入れ ウォールポケット 上ぐつ袋入れ

みんなが作りたいもの、何でできている?

布。ぼくたちの周りには、布でできたものがいっぱいあるんだ。

どうして?

洗えるからでは? やわからいから 作りやすいから

いろいろな形に作るができるから

みんなが作りたいといったものは、ほとんどが5・6年生で習う手縫いやミシンの学習で作ることができるようになるんだよ。

どんなことを学んだら、作ることができるようになるかな?

いろいろな縫い方 針や糸の使い方 布の大きさの決め方 裁縫道具の使い方 ミシンの仕組み 縫う順番 針のさし方 糸の結び方 いろいろなものの作り方 布の切り方 ミシンの使い方 ファスナーのつけ方 2枚の布をどうやって一緒に使うか? 縫い方の種類 布の選び方 ボタンのつけ方 針の使い分け(長針 短針)

少しずつ みんなが学びたいことを解決していき、今回は「手縫い」で自分が作りたいものに向かってがんばっていきましょうね。どんなものを目指したい?

「カッコいい」「美しい」「かわいい」「長持ちする」「使って便利なもの」「楽しくする」「役に立つ」

では、みんなが目指したいものを合体して今回の学習の課題にするよ。今回は「カッコよくて、美しく、かわいくて、実用性があり、長持ちするこものを手縫いで作るにはどうしたらいいか?」にします。この課題を少しずつ解決していきましょう。

### 「題材を貫く問い」の設定の流れ



どもたちが多く、「端は何度も縫って丈夫にすることが大切だ」など、新たな見方・考え方で作品を捉えて、次に気をつけようとしていました。

4時目からはステップ2「活用場面①」です。今回は「学校が豊かになるものを3人組で作って、今まで学んだ知識・技能が使えるか試してみよう」というパフォーマンス課題を子どもたちに与え、今身につけた知識・技能が実際に使える知識・技能になっているか試す場としました。計画から製作、ふりかえりまで3時間という時間設定のもと、子どもたちは「豊かになる」ものとはどんなものかを考え、「学校にこんなものがあったら楽しくなるな」「便利なものを作ろう」「先生にインタビューしてもいいな」「どんな順番で作ろうか」と話し合いながら製作を行っていました。



子どもたちが作った作品は「トイレをきれいに使おうタペストリー」「校長先生のパソコンカバー」「教頭先生のコースター」「学年掲示板の看板」などいろいろなものを作っていました。

子どもは作品を作るごとに振り返りを行い、できるようになったこと、工夫したことなどを自由に記述しています。

右の写真は、子どもが作品を作り終えた後の振り返りです(図2)。作り終えた後、自分ができるようになったこと、工夫したことを写真と照らし合わせながら記入を行っていました。今回、初めて作品を作り上げ、振り返りを行ったので、記入の仕方も指示しながら、クラス全員で同時に振り返りを行いました。

この振り返りは、1枚のポートフォリオになっており、衣(裁縫)の題材でも食の題材でも共通したものとなっています(図1)。子どもたちが毎回の学習を振り返り、次の学習へ活かすことは子どもたちが主体的に学ぶ上で大切なことです。1枚のポートフォリオにすることにより、子どもたちは作品同士を比べて何度も使った知識・技能を確認したり、自分ができなかったところが次の作品ではできりようになると自分の成長に気付く機会としたりすることができます。

作品ごとに振り返りを行った後、今回身につけた知識・技能を整理する場をポートフォリオの中央に設けています(図3)。身につけた知識・技能を整理することにより、作品ごとに子どもの中で点在していた知識・技能を結びつけることができ、他の作品においても使える知識・技能へと概念化することできると考えています。作品ごとに振り返りを行う中で、知識・技能を整理し、できなかったところなどは次への課題としながら、1枚のポートフォリオにすることで、学習の流れを見通し、最後は自分の成長などを感じ取れるものとしたいと実践を行っています。

ステップ3は「家庭生活を豊かにするものを作ろう」ということで、自分たちの家族のために何か作れないかを計画し、実践は家庭で行います。

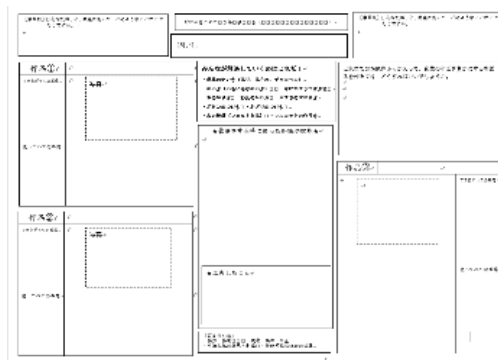


図1 資質・能力開発ポートフォリオ

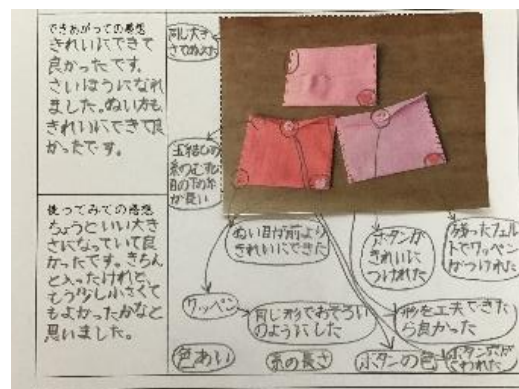


図2 作品①を終えての振り返り

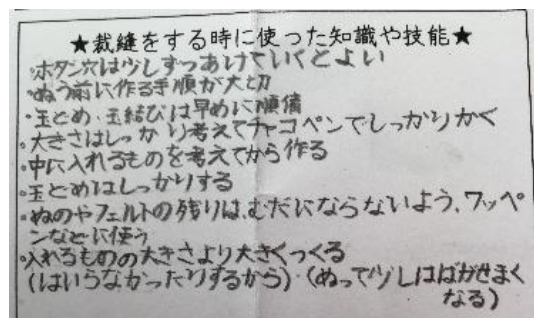


図3 知識・技能の整理